

## 植物防疫基礎講座：フシダニ類の見分け方(2)

## フシダニ科群の概説と属への検索(1)

千葉県農業総合研究センター 上遠野 富士夫

## VII フシダニ科の概説

口吻の大きさは種によってまちまちであるが、体に比べて小さい。鋏角針、単口針とも短い。背甲に生じる背毛(ds)は2本または0本。前甲毛(ads)と前側甲毛(alds)はない。脚は5節からなるが、一部の属では脛節と跗節が癒合するものがある。脚の毛は、前後脚の腿節、膝節と前脚の脛節に各1本、跗節に3本あるが、一部の属で欠くものもある。脚の脛節には距はない。羽毛爪の軸は付け根から分岐するものとししないものがある。後体部の亜背部には亜背毛(sds)はない。生殖口と受精囊を結ぶ受精囊管は受精囊の直径より短い。この科に属するものは植物に虫えい(こぶ、毛せん)をつくるものが多い。フシダニ類で農作物の重要害虫として知られているダニの多くはこの科に含まれており、なかには植物ウイルスを媒介するものもある。この科には6亜科228属が含まれている(AMRINE et al., 2003)が、本邦から、今回本誌で新記録種として掲載した1種を含め4亜科21属46種が確認されている。

## フシダニ科の日本産の亜科への検索表

- 1 口吻の先端は前方につき出し、へら状になっているか前脚跗節に朝顔状の突起がある……………Aberoptinae
- 口吻の先端はへら状ではない。前脚脛節に突起はない……………2
- 2 外部生殖器は後脚の基節に押しやられている……………Cecidophyinae
- 外部生殖器は後脚の基節から離れている……………3
- 3 後体部の少なくとも前半部の体環数は背面と腹面でほぼ同数。背甲の前縁中央域は前方につき出すことはほとんどないが、あっても極めて小さい……………Eriophyinae
- 後体部の体環数は背面と腹面で異なる。背甲の前縁中央域は前方につき出し、口吻の基部を覆う……………Phyllocoptinae

## VII-1 Aberoptinae 亜科の概説

体はやや紡錘形で、扁平。口吻の先端はへら状に変形するか、またはしない。鋏角針は短い。単口針は補助針に比べてかなり短い。背甲の先端中央域はわずかに前方につき出す。dsは背甲の後縁にあるこぶから生じる。脚は太く、各節は短い。前脚の跗節に朝顔状の突起をもつものがある。少なくとも後脚の羽毛爪の軸は1本で、太く紡錘形。その表面から多くの側枝が出る。世界から2属が記載されている。本邦から以下の1属(*Cisaberoptus*)が確認されている。

VII-1-1 *Cisaberoptus* 属

体はやや紡錘形で、扁平。口吻は前方につき出し、末端はへら状。単口針は短い。背甲の先端中央域は小さく前方につき出すが、その先端はへこむ。dsは背甲の後縁にあるこぶから生じ、斜め後方に伸びる。脚は太く、各節は短い。脚に生じる毛はすべてある。羽毛爪の軸は長く太い。その表面には多数の側枝がある。後体部の体環数は背腹ほぼ同数。生殖口蓋は横に幅広く前後に狭く、後脚の基節に接近している。本邦から以下の1種が知られている。

(5) マンゴーサビダニ *Cisaberoptus kenyae* KEIFER (図-10)

雌：体長は0.15 mm 内外。扁平な紡錘形で淡褐色。口吻の先端節はへら状につき出す。背甲はなめらか。dsは背甲の後縁付近にある微細なこぶから生じ、斜め後方に伸びる。脚の各節は短く太い。羽毛爪の軸は紡錘形で、その表面には短い側枝が多数ある。国内では沖縄、徳之島に分布する。このダニはマンゴーの葉表に白色の膜を形成し、その下にもぐり込んでいる。ダニは葉の表面を加害する。著しく加害された葉の表面は黒褐色に変色する。この膜は初め葉表の葉脈沿いに現れ、やがて全面に広がる。

## VII-2 Cecidophyinae 亜科の概説

体はうじむし形ないし紡錘形。外部生殖器は後脚に押しやられており、内部生殖器は前後に押しつぶされたようになっている。生殖口蓋の肋は通常2段。これまで世界から24属が記載されている(AMRINE et al., 2003)。

## Cecidophyinae の日本産の属への検索表

- 1 背毛を欠く……………*Coptophylla*

A Guide to the Eriophyoid Mites in Japan (Acari: Eriophyoidea)  
(2). By Fujio KADONO  
(キーワード：分類、形態、同定、フシダニ科、ビワサビダニ)